不登校支援対応マニュアル

児童・生徒	担　　任	学　　校
兆候 **・遅刻、早退が多い** **・体調不良を訴える** **・保健室の利用が多い** **・月曜日、長期休業明けに休みが多い** **・表情が暗い**	**状況の把握**	**・校長・教頭・教務主任・学年主任** **・生徒担当**
○　学業不振 ○　家庭環境 ○　友人関係トラブル ○　教師に対する不信感 ○　親子関係 ○　本人の問題等	**学年間での共通理解** ・本人からの情報（観察、面接） ・友だちからの情報（観察、面接） ・教職員からの情報 （同学年、前担任、養護教諭、SC） ・保護者からの情報 （電話、手紙、連絡帳、家庭訪問、面談）	**いじめ・不登校等対策委員会** 常設チーム 状況に応じて対応

報告 → 状況の把握 → 学年間での共通理解

学年間での共通理解 → 報告 → 校長・教頭・教務主任・学年主任・生徒担当

校長・教頭・教務主任・学年主任・生徒担当 → 助言 → 状況の把握

校長・教頭・教務主任・学年主任・生徒担当 → 招集 → いじめ・不登校等対策委員会

＊不登校は早期に対応することが大切である。不登校の兆候が見られる児童生徒に気が付いたら、学年で共有するなど組織で対応する。

＊不登校の原因は、特定できない場合も多い。原因探しにとらわれることなく、学校と家庭が連携をとって進めていくことで、児童の変容が期待できる。

初期対応

１日欠席（欠席初日）	欠席状況を把握する	
２日連続欠席	家庭に電話する	
３日連続欠席	家庭訪問を行う ・保護者や本人と話をする	
１週間連続欠席	家庭訪問を行う	
	指導指針に従い行動する	

欠席状況を把握する → 報告 → 家庭に電話する

家庭に電話する → 報告・相談 → 常設チームで検討

常設チームで検討 → 助言 → 家庭に電話する

家庭訪問を行う・保護者や本人と話をする → 報告・相談 → 常設チームで検討

常設チームで検討 → 助言 → 家庭訪問を行う・保護者や本人と話をする

家庭訪問を行う → 報告・相談 → 常設チームで検討

常設チームで検討 → 助言 → 家庭訪問を行う

常設チームで検討

校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事、教務主任、学年主任等

ケース会議を実施

・不登校支援アドバイザー
・スクールカウンセラー
・スクールソーシャルワーカー
・元気Ｕｐ教育相談（専門医）
・外部相談機関との連携

発達に心配のある児童生徒
・あるぷキッズ支援室

協力

指導方針の確立

・役割分担
・関係者が連携する

経過報告

＊適切な登校刺激を与えることは、登校へのきっかけになることも多い。しかし、強い拒否反応が見られるときは、引きこもってしまう場合もあるので、個々のケースに応じて柔軟な指導方針を考える。

学年会で情報を共通理解、場合によっては再ケース会議
「不登校予防と不登校児童に関わる対応一覧」に早めに記入し市教委に報告